

## 航空機に搭載できる測器の組み合わせ

### — 何を測れるか —

気象研究所 村上正隆

気象研究所では、1990年代以降、ダイヤモンドエアサービス(株)の MU-2、B200T、G-2 や中日本航空(株)の B200 に種々の観測装置を搭載してエアロゾル・雲・降水システムを対象とした本格的な航空機観測を実施してきた。これまで搭載してきた観測装置で何を測定できるのか、幾つかの事例を取り上げてそれら観測装置の組み合わせでどのような解析ができるか、何が見えてくるのかを、紹介する。

これまで搭載してきた観測装置では何が足りなかったか、それを補うためにどのような観測装置を追加する必要があるか、補強した観測システムを用いて、どのような観測が可能となるか、に関して観測計画を例示して説明する。

エアロゾル粒子が雲核・氷晶核として働き、雲粒粒径分布や水粒子と氷粒子の混合状態を決定し、雲の放射特性に影響を与えるだけでなく、雲システムの寿命・空間的広がり・降水効率、ひいては雲・降水システムによる水・エネルギー循環にまで影響することが指摘されていることを考慮し、エアロゾルから降水雲システムまでカバーする観測(研究)計画を紹介する。